

# 「衛星放送の将来像に関する研究会」 第5回会合 意見陳述

テレビが中心であり続ける為に



2006年1月25日

株式会社ACCESS

代表取締役社長

荒川 亨

テレビはリビングの中心。さらに端末の進化とインフラの進化が融合して、時間と場所の制約を受けない「いつでもどこでも」見られる環境に変化している



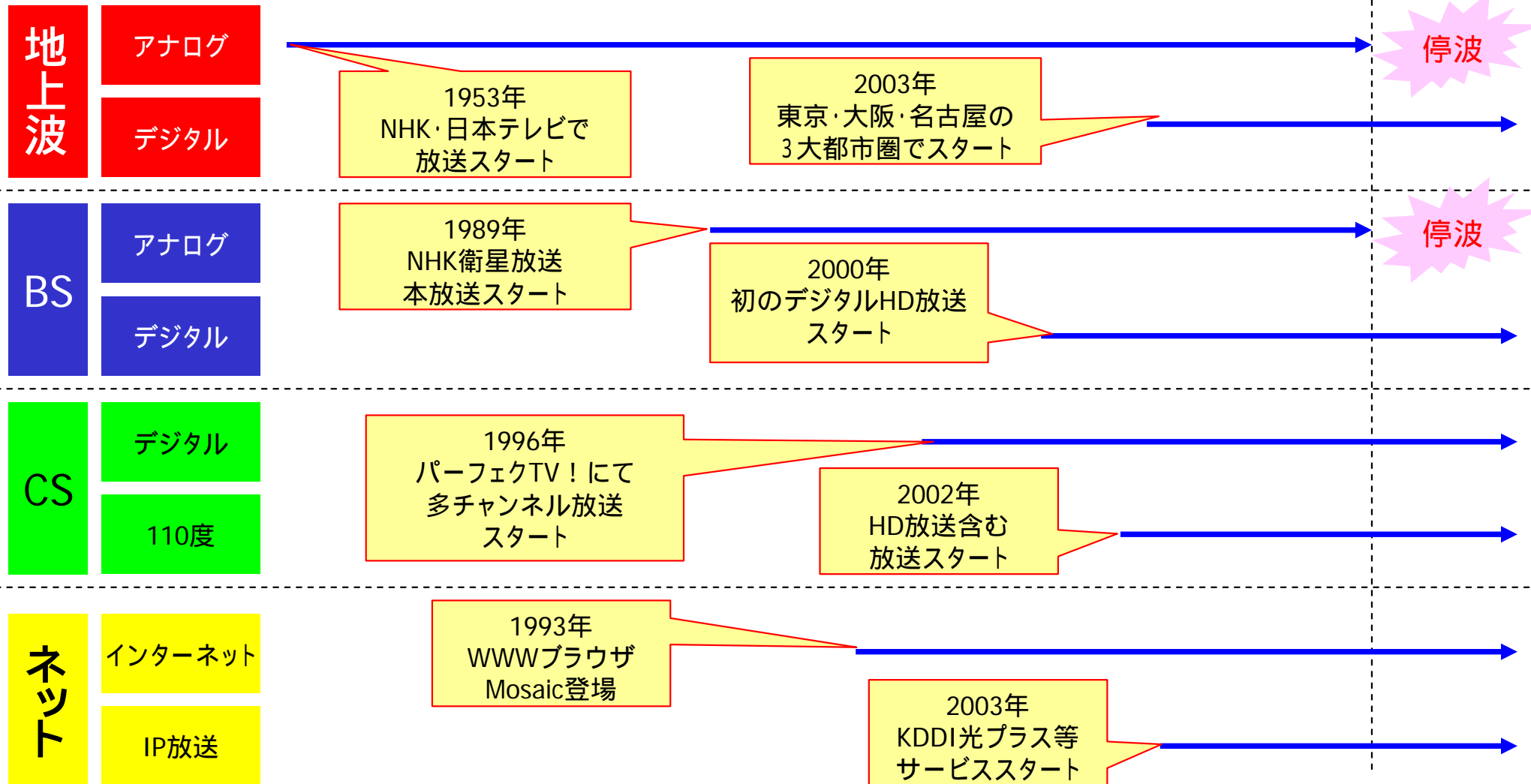
1953

...

1990

2000

2011



生活の変化に伴う趣味/嗜好の多様化と、伝送技術の発展に伴い「メディア」のバリエーションは増加

映像圧縮方式	特長	登場・普及の背景
MPEG-1	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 画質はVHS並</li><li>■ CDサイズの記憶媒体への映像情報保存用</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 「Windows95」の登場によりPCが普及。「動画コンテンツ」の第1歩として主にパッケージメディアで利用</li></ul>
MPEG-2	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 画質はDVD並</li><li>■ 高画質を維持しながらも容量を格段に小さくできる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 多チャンネル/豊富な情報受信のニーズから主にデジタル放送用の符号化方式として普及</li></ul>
MPEG-4	<ul style="list-style-type: none"><li>■ グローバル動き補償で画質をある程度のレベルに保ったまま高圧縮率をほこる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ ISDN及び低ビットレートでのADSL通信、移動体端末向けのストリーミング型動画情報配信のニーズから普及</li></ul>
H.264	<ul style="list-style-type: none"><li>■ MPEG-2の半分以下程度のファイル容量でありながらMPEG-2と同等の画質</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 移動体端末の高機能/高性能化と、より高画質な情報配信のニーズにより登場 ワンセグ放送でも採用</li></ul>

「メディア」のバリエーションと共に映像圧縮方式、対応機器も多様化

## ■ メディア毎の縦割りの利用に留まり、通信との連携や蓄積コンテンツとの連動などに広がっていない

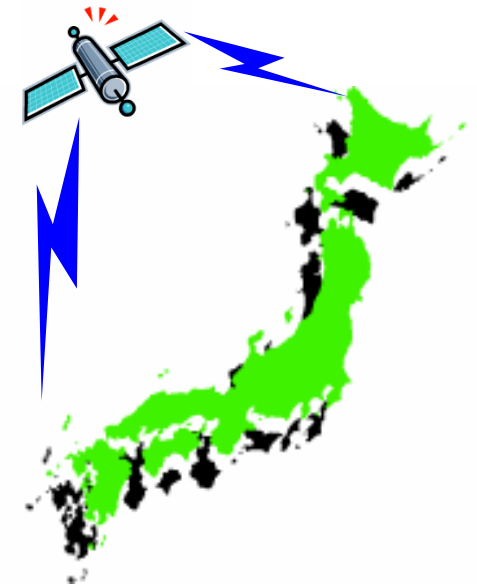


### 技術的な理由

- ◆ アナログとデジタルの混在による映像/音声圧縮方式の違い
- ◆ 高速大容量通信ネットワークの未整備
- ◆ コピーガード方式の違い
- ◆ 記録メディアの容量不足

## ■ 「衛星放送」の特長とは・・・

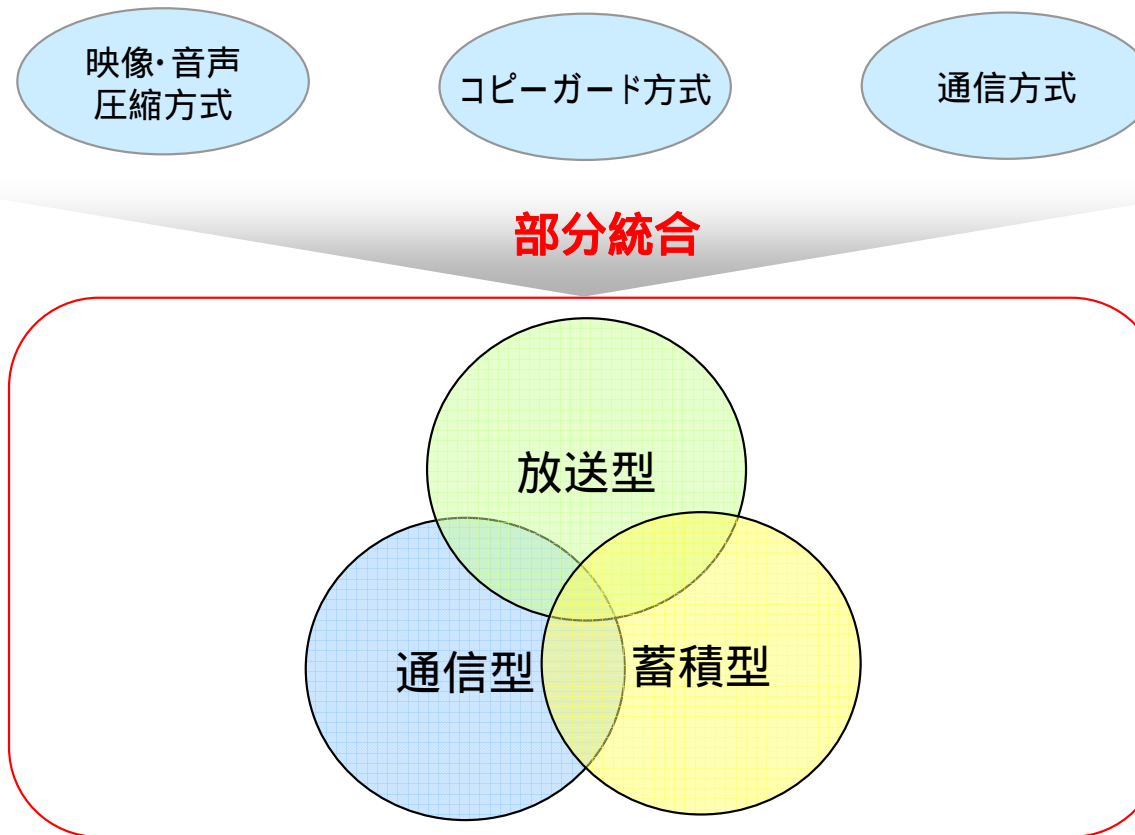
- 効率よく広域への放送が可能
- 大容量の情報伝達力
- 災害発生時の強さ
- 建物や地形の影響による電波障害がない



## ■ 果たしてきた役割とは・・・

- 全国一波での情報配信を実現
- 多チャンネル化・有料放送の浸透によるコンテンツ産業の拡大
- 地域間での情報格差・難視聴地域解消
- 高画質・高音質での情報配信

- コンテンツとインフラの枠組みを再構築し、メディア毎の特長を活かしながらのクロスした利用形態とする事が全体利益に繋がるものと思われる



利用シーンやシチュエーションに応じてメディアの利用パターンを変える

- コンテンツと制作ノウハウを豊富に持つ放送事業者は他メディアでの制作・配信においても有利。  
新たな収益獲得に向けて積極的なメディア開拓を期待
- 放送事業者にはインフラに対する保障ではなく、コンテンツに対する保障責任を与えてメディアフリーでの配信を可能に
  - 放送波での同報配信が望ましくないコンテンツはオンデマンド型での通信経由での配信による視聴制限など

「デジタル化」の時代だからこそ実現出来るモデルを構築して提供



- 地上波と比較して設備更新が早いので、様々な視聴者向けサービスのトライアルとしての活用を期待
  - サーバ型放送
  - コンテンツの放送波多重配信 etc...
  
- 一括大量情報配信の特長に「通信」の特長であるオンデマンドサービスや認証・課金機能を融合させたビジネスモデルの創出
  - 例えば…
    - 放送コンテンツの続きは通信でダウンロード
    - 録画したコンテンツのCMスキップ可/不可設定と認証・課金機能の組み合わせ
      - ✓ 有料視聴の場合はスキップ可能、無料視聴はスキップ不可能など

- 受信機は新規格に対応しながら、既存規格も継承して包含。現行受信機能を共用し、メディア種別を意識しない形での多目的な利用
  - 送出設備・受信機・操作が複雑なりモコンが増えると利用者(放送事業者、メーカー、視聴者)の負担も増える

